

# 埼玉県商品陳列所の県外活動

橋本 栄

## 一、はじめに

埼玉県商品陳列所（以下「陳列所」という）は、県の殖産興業施策の重要な柱の一つとして建設された埼玉県の一機関である。大正から昭和初期にかけて様々な事業を展開し、宣伝活動や販路の開拓などを通して商工業の振興に貢献した。陳列所の活動については、建設時から大正期にかけては、『埼玉県行政史』<sup>1)</sup>に詳しいが、それ以降の昭和初期の活動については、その記述は多くない<sup>2)</sup>。

当館所蔵の「歴史資料」<sup>3)</sup>中に、この時期の陳列所作成の文書六十九点がある。その目録は【表1】のとおりである。昭和元年から五年までの諸活動が詳細に記録されており、当時の産業振興策や県内の特産品等の実状を伺い知ることができる史料である。

本稿では、これらの史料に基づき、昭和初期の陳列所の活動、特に県外宣伝活動を取り上げ、その内容を紹介してみたい。県外への

埼玉県商品陳列所の県外活動

物産紹介や陳列会の開催は、当然埼玉県の重点施策としてその長所を訴えるものであり、歴史的にも当時の県商工業の特色の一端を伺い知ることができるからである。

## 一 陳列所の沿革

陳列所の前身は物産陳列館である。物産陳列館の建設は、明治三十年代から全国的に進んでいたが、埼玉県でもその建設準備が進められるとともに、博覧会・共進会の開催や参加に対する関心が次第に高まり、明治四十四年十月の通常県会で浦和町の調公園内に建設することが決まった。大正元年度予算に同館建設費一七、一三八円が計上され、大正三年十二月十一日に開館した。敷地は約三、八六六㎡、本館は木造二階スレート葺、付属建物に木造平屋の小使室・便所と渡廊下があった<sup>4)</sup>。本館一階には農産品・鑄物・農具・工芸品、二階には織物及び学術教育の参考品などが陳列された。

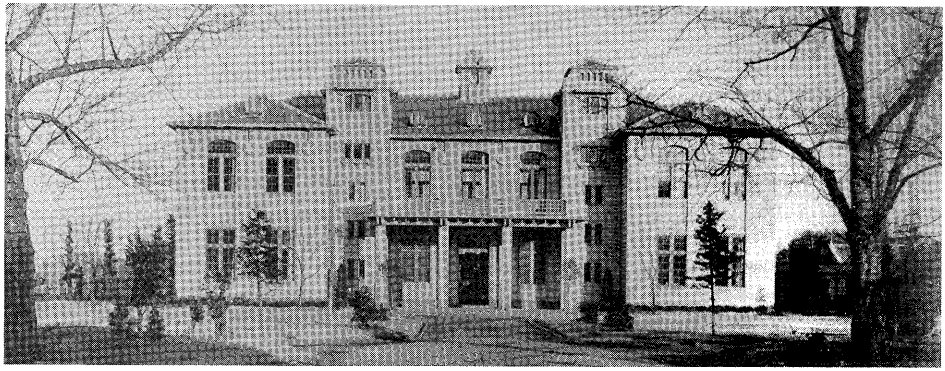
埼玉県商品陳列所の県外活動

【表1】埼玉県商品陳列所関係目録

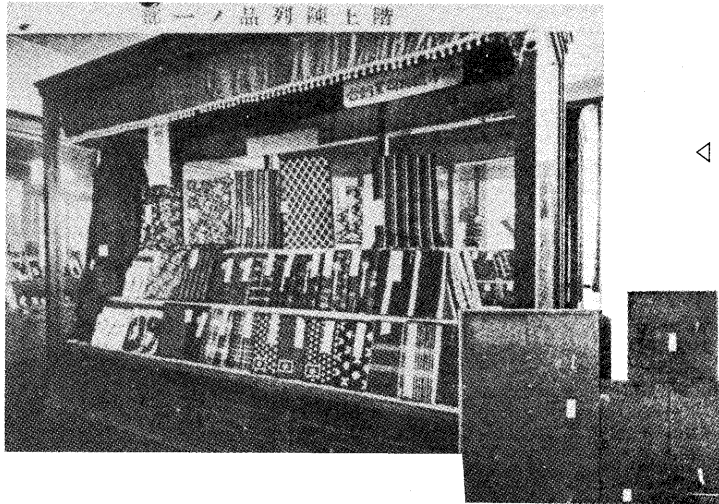
受入番号	文書名	年代
A一五四	東北産業博覧会	昭和三年
A一五五	往復書類綴	昭和三年
A一五六	大札記念国産振興東京博覧会	昭和三年
A一五七	京都大博覧会綴	昭和三年
A一五八	御大典奉祝名古屋博覧会綴	昭和三年
A一五九	売上日報綴	昭和三年
A一六〇	第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類(旭川)	昭和三年
A一六一	全国特産品陳列会綴(小川町)	昭和三年
A一六二	北海道巡回見本市(夏期)	昭和三年
A一六三	出勤簿	昭和三年
A一六四	陳列品整理簿(織物部)	昭和三年
A一六五	陳列品整理簿(飲食品部)	昭和三年
A一六六	陳列品整理簿(雑工部)	昭和三年
A一六七	日誌	昭和三年
A一六八	事件処理簿	昭和三年
A一六九	売上報告簿	昭和三年
A一七〇	県外品売却日誌	昭和三年
A一七一	昭和産業博覧会綴(於広島)	昭和三年
A一七二	試売品整理台帳(飲食品類)	昭和三年
A一七三	試売品整理台帳(足袋・紙・編物・その他)	昭和三年
A一七四	試売品整理台帳(雑工部)	昭和三年
A一七五	試売品整理台帳(織物・雑工部)	昭和三年
A一七六	試売品整理台帳(菓子類)	昭和三年
A一七七	試売品整理台帳(筆筒類)	昭和三年
A一七八	試売品整理台帳(履物類)	昭和三年
A一七九	試売品整理台帳(鑄物・雑・玩具類)	昭和三年
A一八〇	昭和三年度試売品売却代金仕払証書	昭和三年
A一八一	昭和三年度試売品売却代金仕払証書	昭和三年
A一八二	昭和三年度試売品売却代金仕払証書	昭和三年
A一八三	昭和四年度試売品売却代金仕払証書	昭和四年
A一八四	昭和四年度試売品売却代金仕払証書	昭和四年
A一八五	往復書類綴昭和四年	昭和四年
A一八六	往復書類綴	昭和四年
A一八七	出勤簿	昭和四年
A一八八	売上日報綴	昭和四年
A一八九	売却代金交付簿	昭和四年

受入番号	文書名	年代
A一九〇	文書送達綴	昭和四年
A一九一	日誌	昭和四年
A一九二	事件処理簿	昭和四年
A一九三	売上報告簿	昭和四年
A一九四	売上報告簿	昭和四年
A一九五	県外品売却日誌	昭和四年
A一九六	着荷案内控	昭和四年
A一九七	売却代金小切手送金控	昭和三年
A一九八	売却代金小切手送金控	昭和四年
A一九九	試売品整理台帳(履物及傘類)	昭和四年
A二〇〇	試売品整理台帳(飲食類)	昭和四年
A二〇一	試売品整理台帳(菓子類)	昭和四年
A二〇二	試売品整理台帳(雑工類)	昭和四年
A二〇三	試売品整理台帳(筆筒・小箱類)	昭和四年
A二〇四	試売品整理台帳(足袋・紙・編物類)	昭和四年
A二〇五	試売品整理台帳(織物・雑工部)	昭和四年
A二〇六	試売品整理台帳(織物部)	昭和四年
A二〇七	県外品売却日誌	昭和四年
A二〇八	海と空の博覧会綴	昭和五年
A二〇九	国産品輸入品対比博覧会綴	昭和五年
A二一〇	往復書類綴	昭和五年
A二一一	日誌	昭和五年
A二一二	文書送達簿	昭和五年
A二一三	出勤簿	昭和五年
A二一四	県産愛用展覧会綴	昭和五年
A二一五	国産愛用甲府勸業博覧会埼玉関係書類	昭和五年
A二一六	事件処理簿	昭和五年
A二一七	往復書類綴	昭和五年
A二一八	全国産業博覧会関係文書	昭和五年
A二一九	通附録	昭和一年
A二二〇	着荷案内控	昭和四年
A二二一	売上報告簿	昭和四年
A二二二	売却代金交付簿	昭和四年
A二二七		昭和三年

(凡例) 1 この目録は、埼玉県立文書館所蔵の歴史資料(右期限文書取集分)のうち埼玉県商品陳列所関係文書を収録し、受入番号順に並べたものである。  
 2 文書名は簿冊名である。  
 3 年代はおおむね年度をあらわしている



△ 埼玉県商品陳列所全景  
 (『埼玉県写真帖』  
 290. 3サより)



◁ 埼玉県商品陳列所陳列品  
 (『埼玉県商品陳列所要覧』  
 A1160より)

その後、県は物産陳列館を、農商務省より商品陳列所に認可されるよう政府へ働きかけ承認をうけ、大正十年三月に「埼玉県商品陳列所規則」を制定し、「埼玉県商品陳列所」と改称した。さらに「埼玉県商品陳列所業務規程」を定め、専任の主事を置き、業務体制の強化を図り、各種の事業に成果を上げていった。

しかし、政府の緊縮財政政策の下で行財政整理を課題とした山中知事は、昭和七年三月三十一日、陳列所廃止の措置をとった。「これまでの固定的ノ設備ヲ廃シ今後ハ県外消費地ニ於テ積極的ニ物産紹介販路拡張」する方法に改め、「経費ノ節減ヲ図リ且一層其ノ効果ヲ収メル」ためであった。新たに「物産紹介所」が埼玉会館内に開設され、陳列所の事業を引き継いだ。陳列所の建物は、翌昭和八年、副業指導所となり、副業品生産の指導、販売斡旋等が行われた。

## 二 陳列所の事業概況

陳列所の活動概要を知らせる史料として『埼玉県商品陳列所要覧』がある。昭和三年、同所が発行した小冊子で、諸規程及び昭和二年の事業概要がまとめられている。これによると、同館の事業は、産業の発達を図るため、本県物産のほか、産業上有益な内外国品の陳列、商品の委託販売及び貸与・分与・巡回陳列、通商の紹介などとなっている。また、同館の運営に関する諮問機関として評議員会を置き、各同業組合長等が選任され、委託販売、出品勧誘方法、巡回陳列会の開催、展示方法などについて討議された。

「埼玉県商品陳列所昭和四年度業務成績」で一年間の具体的な業務を追ってみると、概ね次のような内容にまとめることができる。

(1) 産業に関する調査。埼玉県商工名簿を作成し、特産品の産額や買継、製造販売業者等を収録して商取引に利用した。同様に特産品の取引案内を編さんして、各府県市、商工会関係団体、大商店、公立商品陳列所等に送付した。

(2) 全国公立商品陳列所連合会の事業への参加。これは、国公立商品陳列所で構成する陳列所連合会の大会や会議に参加し、宣伝販路拡張に関する実務を研究するとともに、即売会を実施するものである。

(3) 所内での陳列会の開催。昭和四年度は、武者人形陳列会、創立十五周年記念国産愛用展覧会、羽子板陳列会、桃の節句雛玩具陳列会が開催された。いずれも製品の改良を促し、需要増大を図ったもので、即売も行った。

(4) 県内での陳列会の開催。県内を巡回する陳列会も実施した。昭和四年度は、川口町で川口鑄物同業組合主催の全国鑄物大展覽会との併催で巡回陳列会を実施した。さらに、所沢町、飯能町、秩父町で第三回海外市場競争品見本展示会を埼玉県織物同業組合連合会と連携をとり巡回展示した。いずれも一日から五日間の期間、地方産業の啓蒙と県産愛用を推奨する目的で実施された。

(5) 巡回見本市。県内製造販売業組合の推薦を受けた者で旅商団

を組織し、大量取引を目指して実施した。昭和四年度は、釧路市と帯広市で第二回埼玉県物産巡回見本市を開催し、旅商六名で取引高八六、二二六円と好成績をおさめた。

(6) 商品の受託試買。所内に陳列してある県生産品を来観者のもつとめに応じて売却していた。昭和四年度は一一、七九二点・一二、八九四円を試買した。

(7) 参考品の収集展示。他の道府県特産品を収集し、本県の物と比較対照させ、本県製品の改良を促そうとする目的で展示された。昭和四年度未まで織物類、雛玩具類、鑄物類など十三府県産の五、四一七点であった。

(8) 通商紹介と博覧会等への参加、斡旋。これについては次に紹介する。

### 三 陳列所の県外活動

陳列所の設置目的は、宣伝活動を通して県物産の販路を開拓し、県産業の振興を目指すことにあつた。その意味で、次に紹介する県外活動は、埼玉県の信用に関わるばかりでなく、県商工関係者が大いに期待する重要な事業であつたと考えられる。陳列所の県外活動は、大きく分けると次の二つにまとめられる。

第一に、通商上の紹介である。県外からの通商照会や特産品調査は、同所に依頼されることが多く、例えば、昭和四年度には、他府県はもちろん台北や大連まで、二十二の府県・市・学校・団体に業

者や特産品を紹介している。昭和二・三年度の二年間の史料<sup>(10)</sup>により、他府県より寄せられた照会に対して、同所が紹介した物産を集約してみると、最も紹介が多かったのは、絹・綿織物類と雑玩具類である。絹織物では秩父や飯能、綿織物では所沢や浦和の製品がよく紹介されている。同所の運営を諮問する評議員会にも有力な各織物同業組合長が名を連ねており、埼玉の基幹産業であったことがわかる。当時、織物は日本の殖産興業策の柱となる主力製品であったが、埼玉もその例外ではなかった。雑玩具類では岩槻と鴻巣の雛人形が各地に頻繁に紹介されている。また、飲食物では、川越の芋菓子、熊谷の五家宝、その他铸件や桐箆筒など、埼玉の特色を示す製品が多かったのは今も変わらないところである。

第二に、各地の博覧会や陳列会への参加がある。昭和四年度には、国や各府県の商品陳列所や商工会等が主催する三十一の陳列会等に対して、県内の多くの特産品とその業者を紹介、出品斡旋している。例えば、昭和産業博覧会（広島市主催）では、売り高二〇〇点・一、一六八円・受賞七、朝鮮博覧会（朝鮮総督府主催）では、売り高一四三三点・一、八九一円・受賞五の成果を上げている。出品物は、大阪市白木屋で開催された府県連合名産大即売会をみると、茶、足袋、玩具、人形、菓子、箆筒小箱など、二、二三三点を出品している。なお、主な陳列会と展覧会は、【表2】のとおりである。

#### 四 埼玉県物産紹介陳列会

陳列所が最も力を入れた県外活動は、「埼玉県物産紹介陳列会」である。県下の重要な特産品を県外に紹介宣伝し、その需要を喚起するとともに、地方の業者と接触して円滑な取引を図ろうとするものである。

陳列所（物産陳列館）開館当初、入場者は順調であったが、その後、利用者は減少していった。一年後には廃止の声も挙がり、大正五年の県議会でも予算が大幅減額修正され、運営は苦境に立たされた。県はこの事態を打開するため、出品物の改善及び紹介、来館者の勧誘、陳列・装飾の改善に積極的に取り組んだ。さらに、地方都市で県産品の展示会を主催し、販路拡大を図ることにした。これが物産紹介陳列会の始まりである。従来、県産品の県外展示は、大都市での博覧会に参加する以外、地方都市では全く行われておらず、未開拓の分野であった。

以下は、前述の「埼玉県商品陳列所要覧」に記載されている県外陳列会である。『埼玉県行政史』の記述と異なる部分<sup>(11)</sup>があるが、概ね年一回ずつ開催され、昭和四年度開催の十五回までが今回の史料で確認できた。

【年】 【場所】

大正五年十月 東京市・白木屋呉服店

大正六年十月 仙台市・五城館

埼玉県商品陳列所の県外活動

【表2】 特殊の陳列会と展覧会

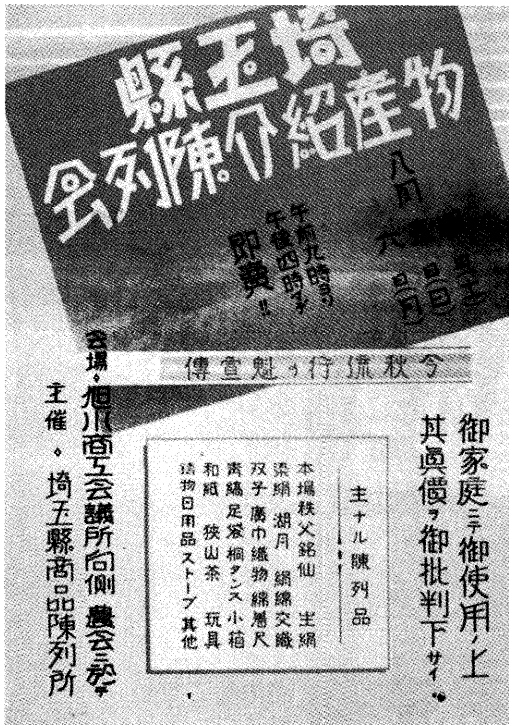
昭和2年度		大正15年度 (昭和元年度)							大正14年度						大正13年度			大正12年度			年度							
十二月	九月	四月	三月	二月	十二月	九月	十月	八月	五月	四月	四月	十二月	十一月	十月	八月	六月	四月	十二月	十月	八月	四月	三月	十二月	八月	五月	月		
婚礼調度品展覧会	全国産業博覧会	埼玉県物産紹介陳列会	国府鉄道開通記念全国産業博覧会事務総括幹旋	東亜勸業博覧会事務総括幹旋	国産愛用特産品陳列大会	婚礼調度品展覧会	産業文化博覧会出品事務総括幹旋	埼玉県物産紹介陳列会	国産振興博覧会事務総括幹旋	盆栽花卉季節織物全国名産品陳列会	全国公立陳列所連合商品陳列大会	全国産業博覧会事務総括幹旋	全国産業博覧会事務総括幹旋	季節向実用品展覧会陳列所	全国副業展覧会附設特産品即売会埼玉県売店事務総括幹旋	全国公立陳列所連合全国特産品陳列大会	青森函館間貨車航送記念共進会事務局総括幹旋	全国公立陳列所連合巡回陳列会	日本絹業博覧会事務総括幹旋	季節向実用品展覧会	第十回埼玉県物産紹介陳列会	全国納涼品並名人団扇展覧会	全国公立陳列所連合商品陳列大会	第九回埼玉県物産陳列会	季節向実用品展覧会	巡回陳列会	季節向実用品展覧会	年度
陳列所	山形市	仙台市	松山市	福岡市	加須町	陳列所	東京市	和歌山市	札幌市	陳列所	長崎市	姫路市	陳列所	東京市	佐賀市	函館市	陳列所	神戸市	陳列所	秋田市	長瀨	松山市	広島市	陳列所	飯能町	陳列所	場所	

昭和4年度				昭和3年度										年度							
十一月	十月	十月	七月	七月	七月	三月	十二月	十一月	十月	九月	九月	八月	八月	四月	四月	三月	三月	三月	月		
全国公立商品陳列所連合名産大即売会	全国鑄物大展覧会	海外市場競争品見本展示会	第十五回埼玉県物産紹介陳列会	第二回北海道巡回埼玉県物産見本市	昭和産業博覧会	全国特産品展覧会	全国特産品展覧会	御大奉祝全国特産品陳列会	大札奉祝博覧会事務総括幹旋	大札記念京都博覧会	御大典奉祝名古屋博覧会	第十四回埼玉県物産紹介陳列会	第一回北海道巡回埼玉県物産見本市	東北産業博覧会	中外産業博覧会	大札記念国産振興博覧会	全国産業博覧会	大日本産業博覧会	年度		
大阪市	川口町	飯能町	所沢町	帯広町	釧路市	帯広町	小川町	浦和市	東京市	京都市	名古屋市	旭川市	札幌市	小樽市	旭川市	仙台市	別府市	東京市	高松市	岡山市	場所

※この表は、昭和元年度までは「埼玉県商品陳列所要覧 昭和二年事業概況」(註(4)史料)、同二年度は「昭和二年度埼玉県商品陳列所要覧概況報告」(註(10)史料)、同三年度は「昭和三年度埼玉県商品陳列所要覧概況報告」(同)、同四年度分は「埼玉県商品陳列所昭和四年度業務成績」(註(9)史料)より作成したものである。

- 大正七年八月 札幌市・開道五十年記念博覧会
- 大正八年三月 金沢市・市公会堂
- 大正八年九月 福岡市・市記念館
- 大正九年十月 松江市・島根県商品陳列所
- 大正十年十一月 高松市・香川県公会堂
- 大正十二年三月 福島県若松市・市公会堂
- 大正十三年三月 広島市・広島県立商品陳列所

◁ 第14回埼玉県物産紹介陳列会のちらし (A1160)



埼玉県商品陳列所の県外活動

- 大正十三年七月 秋田市・商業会議所
- 大正十四年八月 函館市・青森函館間貨車航送記念  
共進会

大正十五年十月 和歌山市・和歌山県商品陳列所

(第十三回) 昭和二年十月 仙台市・宮城県商品陳列所

(第十四回) 昭和三年八月 旭川市・上川郡農会階上

(第十五回) 昭和四年七月 釧路市・帯広町

この十五回の埼玉県物産紹介陳列会のうち、詳細を伝える文書が残されているのは、第十四回旭川市での開催のみである<sup>(13)</sup>。

第十四回埼玉県物産紹介陳列会は、昭和三年八月四日から六日、旭川商工会議所の後援を受けて開催された。三日午後七時から関係者、新聞記者、会議所議員その他六十余名を招待し披露宴が開催され、陳列所長挨拶、旭川市長謝辞等があり、盛況のうちに十時に散会したという。埼玉県内務部長林寿夫は、元北海道警察部長で、関係業者二十名とともに来旭して大いに斡旋した。

陳列品は県の特産品を網羅し、秩父銘仙をはじめ生絹、染絹、湖月、絹綿交織、双子、唐巾織物、綿着尺、青綿、足袋、桐タンス、小箱、和紙、狭山茶、玩具、漆物、日用品、ストープその他であった。<sup>(14)</sup>「初日の四日には開所遅しと購買客押しよせ、商品は羽がはえて飛ぶような売行を示した<sup>(15)</sup>」という。「第十四回埼玉県物産紹介陳列会出品物売却代金取扱調査<sup>(16)</sup>」によると、出品者、品種、売却点数、売却代金は次の通りである。

【出品者】	【品種】	【売却点数】	【売却代金】	出品者	品種	売却点数	売却代金
秩父絹織物同業組合	絹織物・本場秩父縮	九二点	六七七円	細田吉五郎 (小室村)	箆筒小箱	一七点	二六八円
飯能織物同業組合	絹織物・飯能銘仙	一八點	一九七円	埼玉箆筒組合	箆筒小箱	二二点	一六八円
武州本場絹織物同業組合 (小川町)	絹織物・本耳紅絹など	二二点	一一七円	松村夏五郎 (鴻巣町)	人形	一九七点	二二三元
所沢織物同業組合	綿織物・所沢上布など	五二点	一五〇円	岩槻雛玩具製造業組合	人形	一九七点	二二三元
埼玉織物同業組合 (浦和町)	綿織物・双子織など	一二八點	一五三円	小川製紙同業組合	紙類・細川紙など	一六點	二六円
所沢飛白同業組合	綿織物・所沢飛白	一九點	四八円	山崎嘉七 (川越市)	菓子・初雁焼	八〇点	四〇円
埼玉織物産盛同業組合 (加須町)	綿織物・青縮など	二〇點	八八円	中島良輔 (川越市)	菓子・里之誉	六八點	一九円
行田足袋同業組合	足袋・白キヤラク足袋など	二五點	一〇円	岩田初太郎	菓子・芋せんべい	一六五點	五六円
川口鑄物同業組合	鑄物類	三四點	三八円	水野辰五郎 (熊谷町)	菓子・五家宝	一九六點	七四円
茶業組合 山崎覚太郎 (川越市)	狭山茶・狭山園など	一〇〇點	五一円	細谷松五郎 (幸手町)	菓子・塩がま	四四點	九円
計	出品三、四〇二点 売却一、五二二点 代金二、二二二円						



以上の製品は、すべて埼玉県を代表する物産である。当時の埼玉県がその販路開拓に傾注した特産品である。これらの製品は、この埼玉県物産紹介陳列会に限らず、毎年実施される他の博覧会や即売会、品評会で紹介され続けていた。会場も九州から北海道までの各地で開催されてきた。つまり、それだけ販路を開拓する必要があったということであろう。知名度を高め、安定した需要を得るまでにはなっていないかもしれない。大消費地東京に隣接しているながら、他県の伝統ある良質な製品と競合する品種であったこと、県内に大規模な問屋や商店が少なく、流通ルートの確保に遅れたことなどから、需要の新規開拓が必要だったのである。さらに、第一次世界大戦による好況も長続きせず、昭和初期の深刻な不景気が大きな影響を与えたのである。

具体的な事例として、北都毎日新聞<sup>⑮</sup>は次のように伝えている。旭川市と埼玉県との商取引について、狭山茶が静岡物と競争のやむなき状態にあること、織物は、従前東京商人の手を経ていたが直接取引に改め有利になったこと、行田の足袋や川口の鋳物（ストープが中心）、川越の甘藷等は、主として東京商人を経由しているのが、今後は埼玉県と提携して直接取引に改め、商取引の隆盛を期すべきことと論じている。

最後に、この埼玉県物産紹介陳列会を準備した陳列所職員のことを紹介した新聞記事を紹介し、結びにかえたい。

「この見本市のため出張せる同県飯島地方商工主事は語る。

本県の生産品は、多く東京品の名のもとに御地へ移入されて居る状態でありますが、物によってはこの方がよいものもあります。出来得べくんば御地の方々と直接取引を願いたいのです。

秩父織物は全国に名が響いておりますが、桐箆等々は皆東京品として販売されている状態です。（中略）東京製の箆等は皆本県物といつても決して過言ではありません。（中略）今回の催しの要は、本県物産の紹介と直接取引開始のために他ならないのであります<sup>⑯</sup>」

### おわりに

以上、埼玉県商品陳列所の活動、特にその県外活動を中心に、わずかな史料と短期間の調査で述べてみたが、本稿は、今まであまり記述のなされていなかった昭和初期の活動内容を紹介しただけのものであり、埼玉県の物産の特色についても再確認にとどまり、従来の諸研究の域を出るものではない。他県の商品陳列所の活動や国が主催する博覧会と埼玉県の関わりに触れることもなく、わずかな県外活動の事例紹介にとどまっている。今後は、より多くの具体的活動事例を調査するとともに、広範な視野からの研究が必要である。また、試買活動の実態や県内の展示会、評議員会の活動や幹旋・陳列物産の選定など、細部についても注目し、陳列所の活動を通して県民生活に触れられるよう調査を深めていきたい。

註

- (1) 埼玉県編『埼玉県行政史 二』。本稿の記述の多くも同書によっている。
- (2) 埼玉県『埼玉県写真真帖』大正十年三月、京北振興会『浦和総覧』昭和二年十一月
- (3) 有期限廃棄文書収集分を当館では「歴史資料」とよんでいる。
- (4) 「埼玉県商品陳列所要覧 昭和二年事業概況」(当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年 第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」)
- (5) 大正十年三月十八日告示第百六号。註(4)史料に収録。
- (6) 大正十年三月二十三日認可一〇指令商収第一七五六号二。註(4)史料に収録。
- (7) 昭和六年十一月通常県会における説明。埼玉県議会『埼玉県議会史 五』昭和二十九年六月。
- (8) 註(4)史料
- (9) 「埼玉県商品陳列所昭和四年度業務成績」(当館収蔵歴史資料A1210「昭和五年 往復書類綴」)
- (10) 昭和二年度分は「昭和二年度埼玉県商品陳列所事業概況報告」(当館収蔵歴史資料A1155「昭和三年 往復書類綴」)、同三年度分は、「昭和三年度埼玉県商品陳列所事業概況報告」(当館収蔵歴史資料A1185「昭和四年 往復書類綴」)
- 『埼玉県行政史 二』一五五頁では、「最初の埼玉県物産宣伝会が、仙台市五城館で開かれた」と記述し、東京市の白木屋呉服店では、その翌月に開催されたとしているが、当史料では、大正五年の東京市の白木屋での陳列会を最初に記載している。また、同書には大正十三年四月松山での開催の記述があるが、当史料にその記載はない。
- (12) 「第十三回」「第十四回」は註(10)史料、「第十五回」は註(9)史料に基づき補記した。
- (13) 当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」
- (14) 昭和三年七月二十九日「北海日々新聞」(当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」)
- (15) 昭和三年八月五日「小樽新聞」(当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年 第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」)
- (16) 当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」
- (17) ( )内の市町村名は、筆者補記
- (18) 昭和三年八月三日「北都毎日新聞」(当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」)
- (19) 昭和三年八月四日「北海タイムス」(当館収蔵歴史資料A1160「昭和三年第十四回埼玉県物産紹介陳列会書類」)
- 句読点は筆者、用字は常用漢字、現代仮名遣いに改めた。